

平成 23 年度（2011 年） 国際大学交流セミナー

『先端予防医学の国際的協働に向けて』

（主催・信州大学/（独）日本学生支援機構）

International University Seminar
between Japanese and Chinese Medical Students
for Research Collaboration on
Advanced Preventive Medicine

実施報告書



International University Seminar
between Japanese and Chinese Medical Students
for Research Collaboration on Advanced Preventive Medicine
Mon., July 25th – Wed., August 3rd, 2011
Shinshu University Graduate School of Medicine

(Jul. 25: 4:00 p.m. – 4:00 p.m.) Opening Plenary
Keynote Speaker: Jiang Ling Ling (Hebei Medical University)
"Enhancing Chinese and Japanese communication to promote
common development of preventive medicine"

(July 27: 9:30 a.m. – 11:00 a.m.) Special Lecture (1): Keiichi Higuchi
"Alzheimers models for amyloidosis and other age-related diseases"

(July 28: 4:00 p.m. – 9:30 p.m.) Special Lecture (2): Tatsuo Suzuki
"Molecular organization of synapses"

Sessions include education on: Aging Biology, Neuroplasticity, Aging Medicine and Geriatrics, Metabolic Regulation, Sports Medicine Science and Molecular Oncology

For further details, contact: maki@shinshu-u.ac.jp
Office of International Cooperation and Exchange
<http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/medicine/eng/ice/>
3-1-1 Asahi Matsumoto, NAGANO 390-8621 (J:81-263-37-7713)

Co-sponsorship with JASSO

Activity

- ❖ Peace parade
- ❖ Food festival
- ❖ Hiking on Utsukushi
- ❖ Tea ceremony
- ❖ Drum festival
- ❖ Visiting wasabi farm
- ❖ Explore Azumino Now & Then
- ❖ Story-telling exchange

www.themegallery.com

Shinshu University Graduate School of Medicine, Japan
Hebei Medical University, China

信州大学医学部国際交流室 牧 かずみ

まえがき

医学部長（申請時は久保教授）、予防医学関連分野の先生方の賛同を得て、『先端的予防医学の国際的協働に向けて』というプログラムを企画し、独立行政法人・日本学生支援機構の「平成 23 年度国際大学交流セミナー」に応募したところ、幸運にも採択された。

本年は東日本における未曾有の地震と津波による甚大な被害、また、それによって引き起こされた福島原子力発電所の放射能漏れ事故と近隣の多くの住民の退避が続き、平和な日常とは何かを一層深く考えさせられる年となってしまったが、この国際大学交流セミナーに申請した 1 月でも、すでに先行き不透明な世界経済、我が国の政治状態など未来への不安感は存在していたし、日中関係も微妙に揺れていた。

本年は奇しくもチェルノブイリの原発事故から 25 年。24 万人ほどの小都市にも関わらず、今夏国連軍縮会議開催地として採択された松本市が「世界平和都市宣言」をしたのも 25 年前。そして、長年協定校として交流を続けてきた河北医科大学との協定締結からも 25 年という節目の年にあたる。健康な長寿の根底に、平和とは、共存とは、といった視点がなければ予防医学はないと考え、全体のプログラムをそのように構成し、開催時期をあえて国連軍縮会議に合わせた。

採択の結果を受け、交流校での参加者募集に取り掛かったのは東日本大震災からの復興と福島原発事故の収束もまだまだ危うい 4 月のことだった。出入国空港も当初予定した成田を避けることで、安心して来ていただけるよう配慮した。それに伴い、やや強硬なスケジュール設定となった。その上、到着予定日には思いがけない雷雨による欠航という事態が発生し、一行は北京に足止めとなってしまった。「このまま石家庄へ帰ろう」という話もでていたと後に聞かされたが、「どれでも乗れる便に乗って来て下さい」とお願いし、翌日の夜、関空便でようやく入国できた。

専門分野の講演、講義、実地体験は参加学生からどれも高く評価された。予防医学の根底をなす概念としての『他者への思いやり』『自然・動物・人間の共存』『平和』『いのち』を当地の伝統、文化、歴史にからめて包括的に学習してもらおうという企画者の意図は十分理解されたこと、初めて高校生達も参加し、たくさんの市民がボランティアとして関わった軍縮会議は市長によって「松本モデル」と呼ばれたように、若者を含めた松本市民の『世界平和を希求する意識の高さ』が交流校の学生達にも伝わったことが修了発表にも表れていた。何人かは院生として、あるいは研究者として再来日の希望表明がなされている。本学関係者からも交流校の学生達の優秀性を評価し、受け入れ推進の意欲が高まったことが伺われ、一定の成果は得られたと考える。

国際的協働の進展には医学部全体が一丸となって取り組む必要がある。それを促進するにも、また国際的協働が更に多様な分野へと広がっていくためにも、協定校を増やして、このような国際交流セミナーを積極的に実施していくことが不可欠と考えている。

目 次

まえがき

1. セミナー実施計画書	1
2. セミナー日程表（変更後修正版日程）	2
3. セミナー実施体制表	4
4. 交流校へのお願い	4
5. 受入講座へのお願い	4
6. 宿泊場所	5
7. 開講式次第	6
8. 基調講演	8
9. 到着後全体オリエンテーション	10
10. 特別講義 1（抜粋） 加齢生物学分野・樋口教授	11
11. 特別講義 2（抜粋） 神経可塑性学分野・鈴木教授	12
12. 美ヶ原ハイキング（JTRC）	13
13. 関連施設見学	14
14. 国連軍縮会議関連事業	14
15. 茶道体験	15
16. 国際交流実地見学旅行：安曇野探訪＜命のお水・今昔物語＞	16
17. 安曇野資料	18
18. 国際絵本朗読交歓会	22
19. 最終日プログラム 修了発表会～閉講式次第	28
20. 総括講義（抜粋） 分子腫瘍学分野・谷口教授	29
21. Thank you letters	31
22. アンケート集計	32
23. まとめとして	35



1. セミナー実施計画書

平成23年度国際大学交流セミナー 実施計画書(確定版)									
平成23年 6月14日									
大学名:					信州大学				
大学長名:					山沢 清人			印	
主催大学名				区分(国公私)	学部研究科名			機構負担経費	
信州大学				国	医学系研究科			2,100,000 円	
所在地				主催大学負担額					
〒 都道府県から入力してください				37,200 円					
390-8621 長野県松本市旭3-1-1				合計額					
交流大学名				所在地・地域(都市)			2,137,200 円		
河北医科大学				中国河北省石家庄市					
セミナー名及びテーマ							専門分野名		
先端的予防医学の国際的協働に向けて							包括的予防医科学		
参加予定者数		学生		教員		合計		交流大学	
(日本の大学)		20 名	12 名	32 名	(海外の大学)		8 名	2 名	10 名
実施期間				合計	協定書等の取り交わし (学部・大学院間等についても明記)				
平成23年7月24日(日) ~ 平成23年8月4日(木)				12 日間	有 (大学間交流協定)				
I セミナーの趣旨(300字以内)									
長野県が世界有数の長寿県として知られるようになった背景には先端的な予防医学がある。先進国はいつでも高齢化社会となり、医療費負担が財政を圧迫している。今やGDP世界第二位の中国にあっても高齢化社会は押し寄せている。当医学系研究科では予防医学に関して数々の先端的研究を発信し続けてきた。一方、日中関係が微妙に揺れている昨今、当研究科はいち早く平和都市宣言をした松本市に位置し、本県は国連軍縮会議開催地として採択された極めて機を得た状況にある。このような時、求められている包括的予防医学分野の国際的協働と日中の平和的関係の推進を目指して学生・研究者の双方向交流を深めていくことは意義深いと考える。									
(1) 専門家等による講義・講演								時間数及び回	
交流校からの引率教員は当研究科の出身者であり、母校で学科長・教授職にある研究者である。講演は彼らによるもの、加えてそれぞれの分野における講義・研修を予定している。								計 660 分	
(2) 学生間の討議(発表)								計 660 分	
包括的予防医学に関連する複数講座に小グループで分かれて研修を受け、後半はそれぞれのグループによる発表・討議を行うことで、研修内容の共有と確認を行う。									
(3) 文化施設、企業、工場等の見学								3 回	
松本・安曇野の文化施設等に加え、福祉広場(いきいき健康ひろば)、学内・附属病院内の包括的予防医学施設の見学を計画している。									
(4) 開催地の一般家庭との交流								3 泊 3 回	
国連軍縮会議関連の自治体が開催する行事と健康ひろばに参加する市民、朗読会のグループとの交流を予定している。									
(5) その他									
伝統的日本文化(茶道)の実地体験を予定。									

2. セミナー日程表

【日程変更】		様式2-2
平成23年度国際大学交流セミナー 実施計画書(確定版) 日程表		
日付	時間	内 容
7月24日(日)		石家庄市 発
		搭乗予定の CA159便 が欠航のため、北京国際空港近くのホテルに宿泊
7月25日(月)	16:05	北京国際空港 発 (CA161便)
	20:10	関西国際空港 着
	20:46	関西空港駅 発
		(はるか44号) 21:36着 新大阪駅 22:00発 (のぞみ96号)
	22:50	名古屋駅 着 (名古屋 泊 サウナ名古屋)
7月26日(火)	9:00	名古屋駅 発 (しなの5号) 11:04着 松本駅 (送迎 大学マイクロバス)
	14:30 - 15:00	開講式 (基礎棟5階 第1会議室)
	15:00 - 16:30	基調講演「予防医学の共同発展を目指した日中交流の促進」 (”) 姜玲玲先生 (河北医科大学)
	17:30 - 19:00	歓迎交流会 (附属病院 外来棟5階 ソレイユ) (旭会館 泊)
7月27日(水)	9:30 - 11:00	講義①「加齢と疾患」樋口教授 (附属病院 東病棟9階 会議室)
	11:15 - 12:00	オリエンテーション 牧講師 (”)
	14:00 - 15:30	講座別研修① (各受入講座にて研修) (各受入講座) 「加齢生物学」樋口教授, 「神経可塑性学」鈴木教授, 「加齢病態制御学」駒津教授, 「代謝制御学」青山教授
	16:00 - 17:00	附属病院施設見学 (各受入講座関連の施設)
7月28日(木)	9:00 - 12:00	講座別研修② (各受入講座にて研修) (各受入講座)
	13:30 - 15:30	講座別研修③ (各受入講座にて研修) (各受入講座)
	16:00 - 17:30	講義②「シナプスの分子構築」鈴木教授 (附属病院 東病棟9階 会議室)
7月29日(金)		個別運動処方の実践体験 JTRC 「美ヶ原ハイキング」 美ヶ原高原
	8:30	信州大学 発 (往復 大学マイクロバス(トラバ〜外部委託)) (「いきいき健康ひろば」参加の市民と共に実践体験する)
	14:00	頂上駐車場 発
	15:00	信州大学 着 解散

7月30日(土)	9:30 - 12:00	講座別研修内容のシェアリング（グループ及び全体討議）	（基礎棟5階 第1会議室）
	14:00	信州大学 発（往復 タクシー2台）	
	14:30 - 17:00	日本文化体験（茶道：表千家）主宰者：林夏代さん	松本市蟻ヶ崎台（林茶道教室）
		（市民との交流を含む）	
7月31日(日)	8:30	国際交流実地見学旅行 「安曇野探訪：命のお水・今昔物語」	安曇野市
		信州大学 発（貸切大型バス）	
		＝ 拾ヶ堰 ＝ 貞享義民記念館 ＝ 大王わさび農場（昼食）	
		＝ 穂高神社 ＝ 碌山美術館 ＝ 八面大王足湯 ＝	
	16:00 - 17:30	絵本美術館森のおうち 朗読交流会（市民との交流を含む）	
	18:00 - 19:00	〃 懇談会	館長：酒井倫子さん
	20:00	信州大学 着 解散	
8月1日(月)	8:30	信州大学 発（往復 大学マイクロバス）	
	9:00 - 11:30	いきいき健康ひろば JTRC 見学	松本市庄内（ゆめひろば庄内）
	14:30 - 17:00	見学報告会とスタッフによる解説と意見交換	（スポーツ医科学講座）
8月2日(火)	9:00 - 12:00	グループ別討議（発表準備）	（附属病院 東病棟9階 会議室）
	14:00 - 16:00	学生による発表	（ ” ” ）
	16:00 - 17:00	全体討議「包括的先端予防医学」谷口教授	（ ” ” ）
	17:00 - 17:30	閉講式	（ ” ” ）
8月3日(水)	8:00	信州大学 発（大学マイクロバス）	
	9:04	松本駅 発	
		（しなの4号）11:16着 名古屋駅 11:45発（のぞみ221号）	
	12:21	京都駅 着	
		京都市内見学	
		（京都泊 クイロイットホテル京都八条口）	
8月4日(木)	9:40	京都駅八条口 発	
		（空港リムジンバス）	
	11:08	関西国際空港 着	
	13:50	〃 発	
		（CA928）	
	16:00	北京国際空港 着	

まえがきに記述したとおり、北京上空の雷雨によるフライト欠航という想定外の事態への対応が必要となった。かろうじて翌日夜8時10分到着の関空便が取れたとの連絡が入ったので、その夜は名古屋までたどり着いてもらい、強行軍ではあるが、翌々日の午後からセミナーを開始することとした。一行にとっては河北医科大学を出発して2日半後の信大到着であった。

3. セミナー実施体制表

平成23年度国際大学交流セミナー 実施計画書(確定版) 実施体制表								
主催大学名:	信州大学							
主催大学	連絡先	キャンパス名	学部名/課部名	職名	氏名	Tel	Fax	E-mail
	実施責任者	松本キャンパス	医学部	学部長	福嶋 義光	0263-37-2570	0263-37-3083	meddean@shinshu-u.ac.jp
	実施担当者	〃	〃	国際交流室 講師	牧 かずみ	0263-37-2713	0263-37-3498	maki@shinshu-u.ac.jp
	会計責任者	〃	〃	副学部長(事務担当)	戸谷 秀一	0263-37-2571	0263-37-3083	Syuichi_Toya@SU-OASIS.jm.shinshu-u.ac.jp
	予算経理担当者	〃	〃	会計係主査	大久保 圭	0263-37-3249	0263-37-3436	Kei_Ohkubo@SU-OASIS.jm.shinshu-u.ac.jp
	事務担当者	〃	〃	大学院係主査	峰岸 賢児	0263-37-3376	0263-37-3080	Kenji_Minegishi@SU-OASIS.jm.shinshu-u.ac.jp
	交流大学との連絡担当者	〃	〃	国際交流室 講師	牧 かずみ	0263-37-2713	0263-37-3498	maki@shinshu-u.ac.jp
交流大学	主催大学との連絡担当者	河北医科大学	公共衛生学院	教授	田 慶宝	+86-311-8626-1042	+86-311-8626-1042	tz00001@163.com

4. 交流校へのお願い

当医学研究科・生化学分野卒の姜玲玲先生（現河北医科大学大学院副院長）には基調講演をお願いし、やはり当大学院で学位取得後は長年加齢研究・神経可塑性分野の教員を務められた田慶宝先生（現河北医科大学予防医学部副部長）に交流校側の連絡調整役を担って戴いた。

参加学生の選考にあたっては『当方が提供する分野に興味を持ち、英語による意思疎通が可能な研究科学生及び研究への関心の高い高学年医学部生を選んでくれるようお願いしたところ、以下のようなプロセスで積極的に優秀な学生達を選んで下さった。

- 1) 小論文「このプログラムに参加して、学びたいこと」の提出
- 2) 英語能力試験
- 3) 面接

これにより、応募者 50 名の中から目的意識の高い、優秀な学生 8 名を派遣していただいた。

5. 受入講座へのお願い（日程は変更以前の内容）

★お受入の 2 名の学生のために専門図書を選び、その情報をお知らせ下さい。こちらで発注いたします。特に洋書の場合時間がかかる可能性があります。余裕を持ってお知らせくださいますよう、お願いします。

★交流セミナーですので、受け入れ側の学生、教職員の積極的参加が求められます。特に講義については通常の授業、単位コースの一環とし、All Mail での広報を宜しくお願いします。

★初日 25 日（月）の開講式、それに続く基調講演、17 時半からの歓迎交流会にはお教室員の方々、できる限り多くご参加いただけますよう、ご協力のほど、宜しくお願いします。なお、14 時からの開講式には JASSO からのご来席もございます。

★27 日（水）14 時からの講座研修に引き続き、病院、研究施設など関連する施設の見学につきましては、個々の講座において実施をお願いします。

★31 日（日）別途ご案内しております日帰り国際交流旅行はこのセミナーの一環として実施していますので、関係の皆様方も積極的にご参加いただけましたら、幸甚に存じます。

★8 月 2 日（火）研修最終日、14 時よりの学生による発表、それに引き続く全体総括、閉講式にも可能な限り関係の皆様方のご出席を宜しくお願い申し上げます。

★セミナー終了後の報告書提出のため、以下の点もお願いします。

1. 各講座における研修中の写真の提供をお願いします。
2. 参加者（教員、学生とも）には終了アンケートをお願いします、JASSO に集計を提出することになっております。ご協力を宜しくお願いします。

★なお、外部からの PC の持ち込み、学内ネットワークへの接続は禁止したいと考えています。（Orientation 時にはこの点はきちんと説明をいたしますとともに、同意書のサインを求めます。）基礎棟 4 階のコンピュータールーム（CR）の PC 使用について私が管理する条件で Temporary Guest としてアカウント取得の段取りをつけましたが、本来学籍番号を持たない学生は入室できません。また授業等で使用中は出入り不可となりますので、最悪、お教室で対応可能な場合はご協力をお願いします。

6. 宿泊場所

このような企画を積極的に推進しようとして常に問題になるのが宿泊先であるが、幸い学内宿舎が確保できた。人数的にもちょうどこのグループで専有できたため、連絡調整は極めてやりやすかった。

<u>旭会館部屋割 July 24-August 3, 2011</u>					
	Rm #	氏 名	所属・学年	M/F	受入教授
1	400	李 霽 LI Qian	修士2	M	青山教授
		赵 雷 ZHAO Lei	修士1		樋口教授
2	401*	田 慶宝 Tian Qing Bao	副学部長	M	
3	402*	姜 玲玲 Jiang Lingling	大学院副院長	F	
4	403	张 玮 ZHANG Wei	博士1	F	鈴木教授
		宋亚伟 SONG Ya Wei	臨床医学4		
5	405	石 芸 SHI Yun	博士4	F	青山教授
		王 溪 WANG Xi	臨床医学4		樋口教授
6	406	张 博 ZHANG Bo	修士3	F	駒津教授
		高 柳 GAO Liu	臨床医学4		

7. 開講式次第

【日程変更後】

日 時 平成23年7月26日（火）14：30より

○開講式

時間 14：30 ～ 15：00 進行： 瀧 医学部国際交流
室長

場所 医学部 基礎棟5階 第1会議室

- ー 開会の辞
- ー 歓迎のあいさつ 中山 医学部副学部長
- ー 日本学生支援機構(吉野次長)よりのメッセージ [代読] 牧 講師
- ー セミナー参加者紹介（信州大学） 谷口 専攻長
（河北医科大学） 田慶宝 教授
- ー 閉会の辞

○基調講演

時間 15：00～16：30 進行： 谷口 専攻長
場所 医学部 基礎棟5階 第1会議室

- ・ 講演者の紹介
- ・ 講演「Enhancing Chinese and Japanese Communication to Promote Common Development of Preventive Medicine」 姜玲玲 教授
- ・ 質疑応答

○歓迎交流会

時間 17：30～19：00 進行： 牧 講師
場所 附属病院 外来棟5階 レストラン ソレイユ（立食）

- ・ 開会の辞
- ・ 国際交流センター長のあいさつ 赤羽 国際交流センター長
- ・ 交流大学のあいさつ 田慶宝 教授
- ・ 学外講師の紹介 牧 講師
- ・ 交流大学学生の自己紹介
- ・ 閉会のことば 谷口 専攻長

(日程が変更したことに伴い、予定していた日本学生支援機構の代表者の出席が叶わなかった。そのため、ご挨拶をお送りくださった。当日は牧が代読と英訳を行った。)

平成23年度国際大学交流セミナー(信州大学)開講式挨拶

〔平成23年7月25日(月)〕

みなさん、おはようございます。ようこそ日本へいらっしゃいました。

日本学生支援機構の吉野でございます。中国から河北医科大学のみなさんを日本にお迎えすることができて大変うれしく思います。

日本学生支援機構は、奨学金貸与、留学生支援及び学生生活支援という三つの主要事業を通じて優れた人材を育成することを目的としています。この「国際大学交流セミナー」は、我が国の大学と海外の大学との教育交流を通じ、国際理解を深めるために日本学生支援機構が支援している事業です。今回のセミナーは、「先端的予防医学の国際的協働に向けて」と題するプログラムを組んでいます。その内容も、専門家による講演・講義、学生による発表・討議、地域見学、地域住民との交流など多彩で、意欲的なものです。

皆さんにとって、このセミナーは、高齢化社会の国際的な傾向を踏まえ、先端的予防医学に関する有益な知識や経験を学ぶ貴重な機会になります。このセミナーを通して、皆さんが、医学について専門的な学習を深めるとともに、国を越えた学生同士の相互理解を深め、グローバルな視野を身につける良い機会になるものと信じております。

最後になりましたが、このたびのセミナー実施にあたりご尽力いただきました信州大学のみなさまにお礼を申し上げて、私の挨拶といたします。

独立行政法人 日本学生支援機構
留学生事業部次長
(兼)留学生事業計画課長(兼)企画調査室長

吉野 利雄

8. 基調講演

河北医科大学大学院副院長 姜 玲玲 教授

Enhancing international
cooperation to make
contributions to elder preventive
medicine in the world

Lingling Jiang
Hebei Medical University, China
(26 Aug. 2011, Matsumoto)

Exchange with Shinshu University

- In 1984 Hebei medical university began the exchange with Shinshu University, School of Medicine.
- Hebei medical university have sent about 50 persons to Shinshu University, school of medicine for study since 1984
- All the persons back from Shinshu University, School of Medicine actively work in Hebei Medical University now.



Professor Wen Jinkun:

Secretary of the Party committee, director of biochemistry department of Hebei Medical University

1986-1990, studied in Biochemistry Department

Supervisor: Prof. Hashimoto



Professor Duan Huijun:

Vice president and director of Pathology department of Hebei Medical University

1987-1991 studied in Pathology department

Supervisor: Prof. Shigemasa



Professor Ren Leiming:

Head of Chinese and Western integrative medicine research institute of Hebei Medical University

1988-1993 studied in Pharmacology Department

Supervisor: Prof. Chiba



Professor Cui Huixian:

Vice president and director of Anatomy department of Hebei Medical University

1992-1996 studied in Anatomy Department

Supervisor: Prof. Nagata

II. China's population is aging rapidly

More than 10% of population is now age 60 or older. China has become the country with the fastest ageing process

(2) Health Reform Plan

Objective	To ensure universal coverage of essential health c			
Service delivery system	Primary Health Care System (public health and essential health services)	Tertiary Services Syst (acute and catastroph services)		
Social protection system	Free PHC by government's facility	Social Medical Insurance (Essential Medical Insurance + Cooperative Medical Scheme)		Comme medical insuranc
Strategies	Health Law: Health right Role of government's	Statutory government's inputs; Accountability	To assure hospital social objective	Health adminis on syste reform

III. The correlation between lipids and A β production

- LXR activation by TO901317 decreases brain A β through decreased brain cholesterol by increasing the expression of ABCA1 and CYP46

Conclusions:

- Decreasing cholesterol levels through LXR activation can prevent A β production.
- LXR β takes an important role in brain cholesterol metabolism.

4. Hydrophilic stain -- brain cholesterol --- A β

Fluvastatin inhibits the activity of key enzyme HMGR in cholesterol synthesis

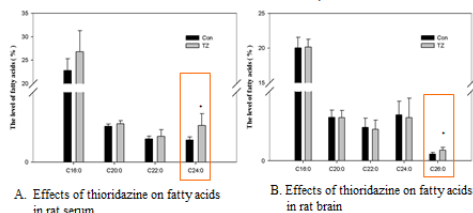


- Epidemiological studies suggest that treatment with statin reduces the risk of developing AD.
- Fluvastatin is hydrophilic, can not be allowed to pass through the blood- brain barrier.

Dose fluvastatin decline the A β via decreasing brain cholesterol or serum cholesterol?

6. Very long chain fatty acids (VLCFAs) and A β

Thioridazine (TZ, a peroxisomal β -oxidation inhibitor) →
2wk → increased very long chain fatty acids → A β , learning and memory performance and APP expression



Factors that influence A β production

- LXR β
- Hydrophilic statins
- High cholesterol diet
- High LH
- High fat-induced IR or diabetes
- Inhibition of peroxisomal β -oxidation

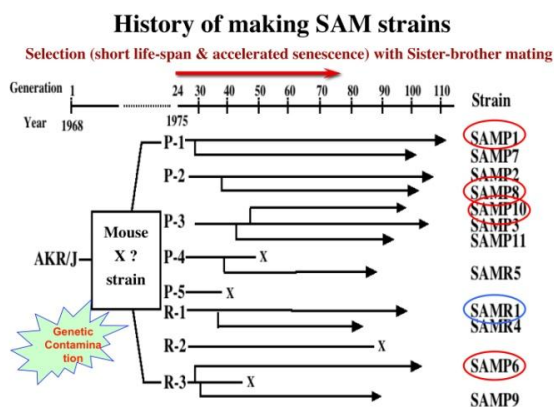
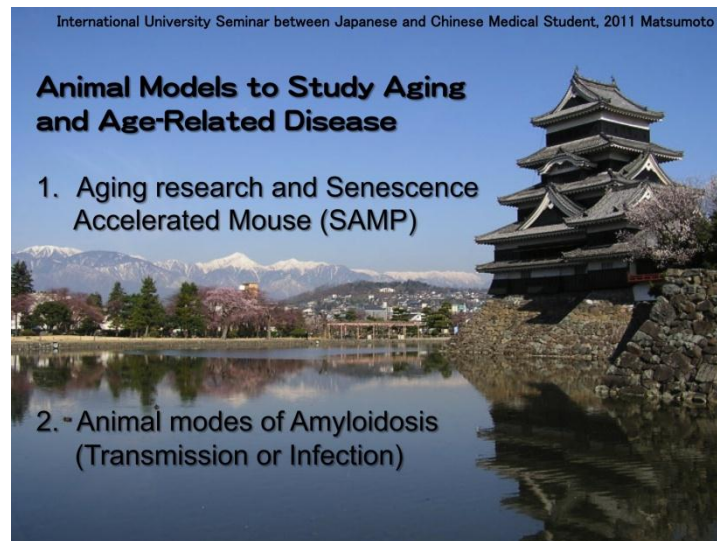
They all can be the target to prevent AD.

9. 到着後全体オリエンテーション

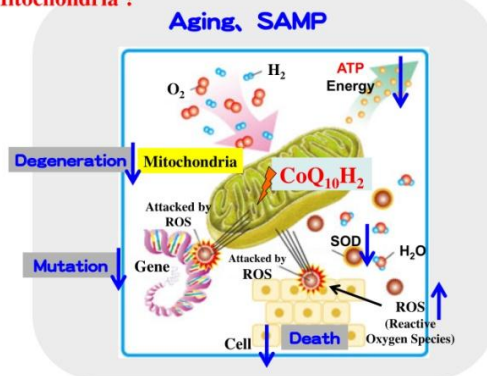
- Inside the envelope (封筒の中の品確認)
大学概要、松本市内地図、宿舎に関連する品や内容(鍵、連絡先電話番号等)、宿泊先での注意事項及び緊急時連絡先電話番号などは到着時点で手渡し、オリエンテーション時に再度確認した。
- Seminar Packet (セミナーフォルダー)
研修期間中の資料すべてがまとめて保管できるフォルダーを作成、配布した。
- Go over schedule (日程表確認)
配布資料を確認しながら、スケジュール説明を行った。
- Accommodation, meals, shops around campus (宿泊所、食事場所他)
宿舎での問題点等、確認。食事場所、キャンパス内、近隣の店等は日程変更により、キャンパスツアーを中止せざるを得なかったが、同窓の留学生達に適宜対応してもらった。
- PC, Internet related matters (PC 関連、ゲストアカウント情報)
修了発表に向け、PC の使用が必要となるため、ゲストアカウントを取得し、コンピューター室の使用を可能にした。
- Building Security(in/out of the bldg.. outside hours) (建物出入り)
建物のセキュリティ、週末対応に関する説明を行った。
- Dress Code (服装：学内、ハイキング時、旅行時など)
講座での研修、ハイキング時、学外施設訪問等、様々な活動が企画されているため、それぞれにふさわしい服装などの解説を行った。
- In case of Emergency (緊急時：病気、事故、地震など)
緊急時の対応、緊急連絡先情報の提供のみならず、特に頻発している地震に遭遇した際の避難先情報と適切な基本的対応行動は英訳付きの資料を渡した。(東京消防庁の Website より)

10. 特別講義 (1)

加齢生物学分野・樋口教授

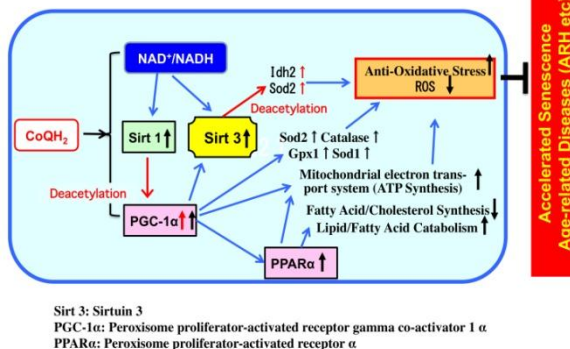


Mechanism of Accelerated Senescence Mitochondria?



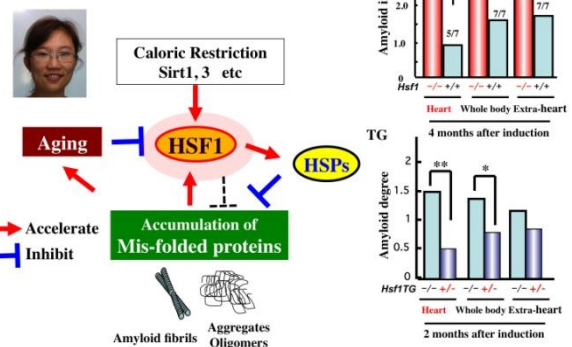
International University Seminar between Japanese and Chinese Medical Student, 2011 Matsumoto

A Model for CoQ₁₀H₂ Mediated Prevention of Senescence and Age-related Diseases (hypothesis)



International University Seminar between Japanese and Chinese Medical Student, 2011 Matsumoto

Aging & Amyloidosis Prevention & therapy



11. 特別講義（2）

神経可塑性分野・鈴木龍雄教授

International University Seminar between
Japanese and Chinese Medical Students


2011日中国際大学交流 特別講義

Molecular architecture of synapses

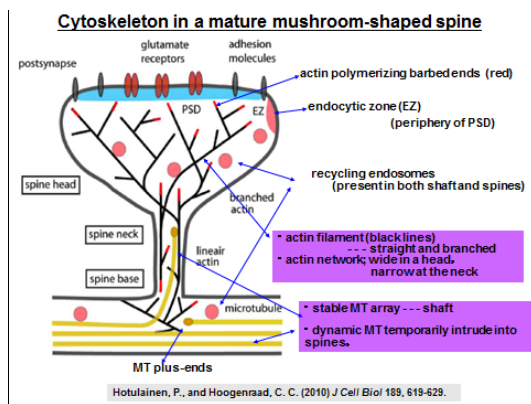
2011.7.28 (Thu) 16:00~17:30

Tatsuo Suzuki

Dept. Neuroplasticity
Shinshu Univ. Grad. Sch. Med.



Various synapses, Spine structures



History and Development of PSD Research

Molecular Architecture of PSD

Another important element for
Synaptic functions:

Membrane Rafts

Synaptogenesis & Synapse Modulation

Perturbation in synaptic growth, development, and stability → Mental disorders
Neuropsychiatric disorders

Process

Stabilization of initial synaptic contacts by cell adhesive proteins **raft**

Organization of pre- and post-synaptic specializations by scaffolding proteins

Regulation of growth by intercellular signaling pathways **raft**

Reorganization of the actin cytoskeleton and proper endosomal trafficking of synaptic proteins **raft** **raft**

美ヶ原ハイキング

7/29(金)

出発(時間までにお集まりください)

朝8:30 信州大学本部前

信州大学のバスで移動します。

予定表

08:30 信州大学出発

| バス

09:30 自然観察センター

10:00 王ヶ鼻

10:30 王ヶ頭

11:00 美しの塔

11:30 王ヶ頭

昼食 自由時間

13:30 下山開始

14:00 自然観察センター

| バス

15:00 信州大学

◆気象条件|
が変更することがあります。



注意

持ち物 :

・歩きやすい服装

気温は10度以上下がります。真夏でも半袖一枚だと寒いと感じることが多いです。必ず上に着れるものを用意してください。

登山道ですが、しっかり整備された道ですので、普段履いているスニーカーなどで大丈夫です。

・昼食

お飲み物は1リットルくらいは持った方がいいと思います。晴れていれば、500のペットボトルでは足りません。

・雨具

風が常に吹いているので、傘は全く役に立ちません。基本的には、降り始めたらすぐに下山をしますが、できればビニールで構わないので、着れるものを用意したほうがいいと思います。

・リュックサック

手に物を下げていくのは避けてください。

・その他

美ヶ原は気軽に行ける場所ですが、2000mを超える高山です。天候の変化はあっという間で、晴れていても10分後には雷雨になったりします。上記の持ち物についてできるだけご用意ください。



お問い合わせ・お申込は

NPO法人 熟年体育大学リサーチセンター 松本事業所

TEL 0263-24-3386 担当/丸岡

当日の緊急連絡先 : 090-4464-7414

〒390-8621 長野県松本市出川1-5-9ゆめひろば庄内





河北からの参加者滞在中は、連日梅雨のような天候となり、北アルプスの峰々がみられる日は一日もなかった。当日も悪天候のため、2000mの頂上に上がる計画を変更し、みすず湖から松本平をわずかに垣間見られる見晴らしポイントまでの往復約1時間、「熟大メイト」を装着してのハイキングとなった。いきいき広場の日本人メンバーと交流しながら翌週のため

めのデータ集めができただけでなく、結果的には時間的余裕ができたため、アルプス公園も歩き、「山と自然博物館」展望台から2日後に出かける安曇野を見下ろすことができ、安曇野ツアーへの期待を高める効果があった。更に午後は、到着遅れの日程変更により中止していた松本市内見学を復活させ、美術館などの見学ができて、悪天候が幸いしたと言える。

翌月曜には実際にインタバル速歩の指導を受け、市内のいきいき広場の端末で自分のデータ結果を見ることができた。午後はこれらの実体験を基に、スポーツ医科学講座の能勢教授による詳細な総括講義によって理解を深めることができた。

13. 関連施設見学



14. 国連軍縮会議関連事業

研修時間外で参加可能な事業紹介を行ったところ、彼らはどれにも積極的に参加してくれた。あっぱれとしか言いようがない！



市民ピースパレード



お城公園のふうりん飾り

食の見本市



太鼓祭り

15. 茶道体験

「他者への配慮」「調和」などの日本的な価値観が網羅された伝統的な文化活動のひとつとして茶道体験を選んだ。ご自宅で表千家の茶道教室を開き、後身のご指導をなさっている林夏代先生に講師をお願いした。林先生は異文化の人々にもこのメッセージを伝えたいと留学生達への指導も熱心に続けておられる方で、こちらの意図を十二分に汲み取って下さった。打ち合わせ準備段階から当日の設定、中国語訳付き配布資料に到るまで細かなご配慮は隅々に及び、その周到さこそが茶道の真髄なのではないかと私には思われた。感謝の他ない。



おもてなし下さった面々の中に林先生が指導をされている外国人留学生や日本人学生も揃えて下さった。自身で着付けた着物姿の留学生達が凛とした姿で、落ち着いて茶を立てるのを見、中国語通訳付きで茶道を体験できたことは交流校の学生達の心に何かをのこしてくれると確信している。

16. <日帰り実地見学旅行>

安曇野探訪：『命のお水・今昔物語』と『朗読交歓会』

.....

現在全国的にも訪れたい場所、住んでみたい場所として上位に選ばれることが多い安曇野。安曇野が豊かになった歴史的背景を知ると共に、「読みきかせ」「絵本の朗読」活動を行っているグループとの交流と朗読体験を通して、国境を越えて、自然・人・動物の共存、他者への思いやり、平和、そして未来への希望の大切さを再考する機会とする。

Preface

Matsumoto, having merely 240,000 residents, is exceptionally chosen as a venue for the UN Conference on Peace and Nuclear Disarmament Issues*. It's reported that the city welcomes the news and its citizens have been much more actively involved than those in any other chosen city in the past.

(人口高々24万人の松本市が国連軍縮会議の開催地として選ばれ、町は歓迎し、これまでのどの町よりも市民たちが積極的に盛り上げていると伝えられています)

We were recently faced with triple disasters: unprecedented scale of earthquakes, tsunami and a nuclear accident at a power station, as you all know.

(かつてない激しい地震と津波、それに加えて原発事故と3つの災害に私たちが直面したことはご存じのとおりです)

What are the recent disasters telling us? Isn't it a warning sign from our mother nature that we should pause for a moment and rethink about what path we must take from now on for the sustainable future of our planet.

(大災害は何を私たちに伝えようとしているのでしょうか？人はしばし歩みを止め、持続性ある未来のためにどの道を選ぶべきか再考するようにと母なる自然は注意を喚起しているのではないのでしょうか)

We are carrying out our lives as part of the nature. Nature does not grow by itself, if it is left untouched. Nature grows and shines when human beings honor and put hand on it for harmonious co-existence.

(私たちは自然の一部として暮らしています。自然は放置されたままでは成長しません。人間が自然を尊重し、共存を目指して手を加えた時、自然は生き生きと輝きます)

Hopefully we can gain some insight from wisdom of our ancestor by learning some history of Azumino and visiting this nature rich area.

(豊かな安曇野の地を訪れ、歴史が語る先人の知恵を学ぶことで、今を生きる私たちが何かしらのヒントを得ることができたらと願います)

At this time I would also like to express my sincere gratitude for your decision to be engaged in exchange with us. We will reshape Japan by changing tragedy to opportunity utilizing all the support offered to us from

all over the world including yours.

(この交流旅行に参加くださったことにも併せて感謝を述べたいと思います。日本は、みなさんを含む世界中からの支援をいただき、きっと悲劇を貴重な機会へと変換することでしょう。)

*United Nations Conference on Peace and Disarmament Issues

- Conducted by UN Asia/Pacific Center of Peace and Disarmament Issues
- Held once a year at a local city in Japan
- It's the 23rd conference this year.
- Approximately 80 high-ranking officials and professionals from around 20 nations are gathering here this week and have talks on the issues.

日 程

2011 年 7 月 31 日 (日)

- 8:20 a.m. 出発 10 分前に北門に集合
Meet at the univ.'s North Gate
- 8:30 a.m. 大学出発
Leave the university
奈良井川拾ヶ堰取水口を経て
With stopping at the Dam
- 9:30 a.m. 貞享義民記念館へ
<http://www.anc-tv.ne.jp/~gimin/english.html>
head for Jyokyogimin Memorial Museum
- 10:30 a.m. 拾ヶ堰水路を実際に訪れ、物産店などに立ち寄りながら、
豊かな安曇野をワサビ田へと向かう
On the way to Daiou Wasabi Farm
<http://www.i-turn.jp/daiou-wasabi-farm.html>
we'll stop at places like canal and a local farmer's market
- 11:30 a.m. わさび田見学と昼食
Lunch at the Wasabi Farm
- 1:30 p.m. 安曇野周辺を探索(碌山美術館、穂高神社、足湯など)し、絵
本美術館・森のおうちへ
<http://www.rokuzan.jp/>
<http://www.hotakajinja.com/>



17. Azumino 安曇野

Azumidaira, the Azumi Basin, stretches from the west banks of the Azusa(梓川) and Sai(犀川) rivers to the foot of Hida Mountains(飛騨山系), also known as the Northern Alps, in the west, and towards the southernmost watershed of the Takase River(高瀬川). Azumino(安曇野), currently called and one of the most favored tourist destinations, is known for its natural beauty and its abundance of museums and art galleries.

(安曇平は、西には北アルプスとも呼ばれる飛騨山系のふもと、梓川の西堤から高瀬川の南端分岐点が犀川に合流するあたりまでに広がった盆地です。今では安曇野と呼ばれ、お気に入りの旅行先として知られるこの地は自然美と美術館や博物館に溢れています)

At least a thousand years ago, the people of Azumi(安曇族) moved into the area and settled there, it is said. Originally, the Azumi, which means the people who live on the sea, lived in northern Kyūshū(九州). They were famed for their skills in fishing and navigation. Between the 2nd and the 4th centuries, they built a shrine on Shikanoshima(志賀島) island in Fukuoka city(福岡市) in northern Kyūshū(九州). Most of their new settlements in the main land(本州) were built along seashores, with the exception of Azumino, the landlocked basin in the mountainous region. The reason for their choice of this area is still unclear; however, *Hotaka Jinja*(穂高神社) in Azumino, is known for its enshrinement of the gods of the sea.

(少なくとも1千年前に安曇族と言われる人々がこの地に移り住んだと言われています。「海の住人」を意味する安曇族は北九州に住んでいました。漁業と航海に長け、2世紀から4世紀の間くらいに北九州福岡市の志賀島に神社を建てていました。移住した本州の地のほとんどは海沿いの町で、山に取り囲まれた安曇野だけが例外でした。その理由はいまだ定かではありませんが、穂高神社は海の神を祭っていることで知られています)

The Azumi Basin is the compound alluvial fan(複合扇状地). An **alluvial fan** is a fan-shaped deposit formed where a fast flowing stream flattens, slows, and spreads typically at the exit of a canyon onto a flatter plain. A convergence of neighboring alluvial fans into a single apron of deposits against a slope is called a compound alluvial fan. (安曇平

は複合扇状地です。扇状地とは峡谷の急流が平らな土地へ届くと流れは緩やかとなり沖積物が扇状形に広がります。隣り合ったいくつもの扇型沖積物がしだいに集合してできたものを複合扇状地と呼びます)

This kind of land is mostly made up of sand and rocks brought down from high hills; therefore, the plains quickly absorb water in the middle flat part of the plains filled with stones and some of the streams reappear as springs at the end of the plains. Characterizing the low water-holding capacity of its soil, the Azumi Basin had been a parched wasteland for many centuries, except for limited small areas close to rivers and springs. Even underwater coming out as springs tends to be too cold for rice growing. The annual precipitation of this area is also pretty low. Thus, the agricultural history of Azumino is almost the same thing as the

history of the *segi*, irrigation network.

(このような沖積地は高地から運ばれた砂や岩などでなっており、平らな土地の中心部に来ると石でいっぱいの平地は急速に水を地下に吸い込みます。一方、いくつかの流れは平地のはずれでまた泉のように地上に現れます。保水能力の低い土地ゆえに、川や流れに近い場所以外は安曇野は何世紀もの間干上がった不毛の地でした。地下水でさえ冷たすぎて、米作には向きません。年間降水量も少ない土地で、安曇野の農耕の歴史はほとんど堰づくりの歴史と重なるのです)

The Jōkyō Gimin Memorial Museum (貞享義民記念館)

The Jōkyō Gimin Memorial Museum is a museum dedicated to the Jōkyō Uprising that occurred in Azumidaira in 1686 during the Edo period (1603–1868). The uprising is also called the Kasuke Uprising who led a failed appeal, asking for lower taxes.



In the feudal social structure of the time, appealing was strictly forbidden and Tada Kasuke and seven other farmers were caught and executed, along with twenty people from their families, including a sixteen-year-old girl. The museum is located in the former village of Nakagaya (in the Matsumoto Domain during the Edo period), where Tada Kasuke had governed in the late 17th century.

(貞享義民記念館は江戸時代 1686 年に起こった百姓騒動に関する資料館です。年貢軽減を求め立ち上がったものの失敗に終わった加助の名をとって加助騒動とも呼ばれます。身分制度厳しい封建時代には固く禁じられていた直訴を行った多田加助と他の 7 人の農民は捕えられ、16 歳の女子や家族たち 20 名ともども処刑されました。館は多田加助が 17 世紀末に庄屋として治めていた、当時は松本藩の中萱村に位置しています)

The uprising is perceived to be a struggle for the right to life. Thus, the founders of the memorial museum erected two plaques at the front entrance of the building.

(騒動を生きる権利のための闘争と捉えて設立されたこの博物館の正面玄関には 2 枚の銘板が建っています)



The one on the left is inscribed with the 11th and 12th articles of the Constitution of Japan. The one on the right is inscribed with the first article of the Universal Declaration of Human Rights. Those inscribed articles clearly state the fundamental rights global citizens are entitled to: Exactly the cause which the leaders of the uprising had given their lives for. (左側の銘板は日本国憲法第 11 条、12 条。右側は世界人権宣言第 1 条で、これこそ世界市民が与えられるべき基本的人権、まさに騒動の主導者達が命を懸けて戦った理由といえます)

Highlights of the exhibits include:

- **The letter of appeal of five articles** (prepared by Tada Kasuke and others)
- The response document signed by executives of the Matsumoto Domain (turned out to be an evasive tactic)
- The copy of *Shimpu-tōki*, the official record of the Matsumoto Domain compiled by the Mizuno clan forty years after the uprising
- Tada Kasuke's statue (replica; the original sits in *Jōkyō Gimin-sha*)
- A scale model of Azumino at the time of the uprising featuring spots and areas involved in the incident.

Also, there is a man-made stream in the front garden. The clear water of the stream symbolizes the purity of *Gimin's* heart. The water is designed to remind visitors that a part of the reason for the farmers' sufferings of the time came from water shortage. It was before the time of *Jikka-segi*, the irrigation network this region is famed for. (前庭には人工の流れが造られ、澄んだ水は義民たちの清らかな心を象徴しています。お水は農民たちの当時の苦しみ水不足から来たものであることも思い起こさせます。それは、この地域で有名な拾ヶ堰農耕水路ができるより前のことでした)

Source:

http://en.wikipedia.org/wiki/J%C5%8Dky%C5%8D_Gimin_Memorial_Museum

Jikka-segi, the irrigation waterway (拾ヶ堰)

As you have read in the story of farmers' uprising in 1686, a part of the reason for their sufferings of the time came from water shortage due to the low water-holding capacity of its soil. (保水

力の低い土地ゆえに、1686 年の農民一揆の要因には水不足がからんでいたことを読まれたことでしょう)



Since the Heian period (794–1185/1192), a number of irrigation networks have been built, which are still in service. But the region had remained unproductive before the innovation of building a *segi* (堰) along a contour line (等高線). This

type of irrigation network is called *yoko-segi* (horizontal irrigation network), as opposed to usual *tate-segi* (vertical irrigation network). (平安

時代より数々の水路が作り続けられ、それらは現在でも使われています。それでも通常の縦堰ではなく、等高線に沿った横堰と呼ばれる農耕水路ができるまでは、この地は不毛のままでした)

In the early Edo period (1603–1868), after many failures, the mayor of Yabara village succeeded in building *Yabara-segi* (矢原堰) along the 545-meter contour line. This success was followed in 1685 by the building of *Kan'zaemon-segi* (勘左衛門堰) and in 1816 by the *Jikka-segi* (拾ヶ堰).

(何度も失敗を繰り返した後、江戸時代初め、矢原村長が 545m の等高線に沿って矢原堰を造ったところ、上手くいき、1685 年には勘左衛門堰が、1816 年には拾ヶ堰が造られました)

This *Jikka-segi* irrigation canal stretches 15 km running first vertically from the Narai River (奈良井川) in the east, then horizontally along the 570-meter contour line with an incline of only 1/3000 degree through the middle part of the plains toward the Karasu River (烏川). It irrigates 1000 hectare agricultural land, covering 10 villages, which is why it's called *Jikka-segi*, canals for 10 villages.

(拾ヶ堰は東の奈良井川からまず縦に伸び、平地の真ん中あたりで 570m の等高線に沿って水平方向に、たった 3 千分の 1 の傾斜で烏川へと向かう全長 15km の水路です。10 の村に広がった 1000 ヘクタールの農地を灌漑しています。10 の村に及ぶ、それが拾ヶ堰の名の所以です)

It only took 3 months to complete the canal. It is almost miraculous to be able to construct the canal with such precision and speed, only using primitive surveying instrument and techniques available at that time!

(この水路事業にはたった 3 か月しかかかりませんでした。あの時代の極めて古風な測量器と技術でもって、あのスピードと精巧さで作り上げたことはほとんど奇跡としか言いようがありません)

The *Jikka-segi* is designated by the Ministry of Agriculture, Forestry, and Fisheries of Japan as one of the 100 best agricultural waterways. Today, farm land in the Azumi Basin has twice the density of irrigation as the national average, giving rise to its high agricultural productivity. The main agricultural products are rice and fruits. (拾ヶ堰は農林

水産省の 100 の優秀水路のひとつになっています。安曇野の水路の密度は国内平均の 2 倍あり、生産力を高めます。米と果物が主要生産物です)

Source:

http://en.wikipedia.org/wiki/Azumi_Basin

The Daiō Wasabi Farm 大王わさび農場

Some of the streams that suddenly disappear into the ground reappear as springs in the middle of green groves. Many such springs are found in the Azumi Basin, but probably the most concentrated area is *Azumino Wasabi-da Yūsui-gun* (安曇野わさび田湧水群 Azumino horseradish farm springs), designated by the Japanese Ministry of the Environment as one of the hundred best waters. The Daiō Wasabi Farm is located in the area and is regarded as the largest of its kind. (平地で突如消えた流れのいくつかが緑の木立の真ん中で再び泉として現れます。安曇野ではそのような泉が方々にたくさんありますが、それが最も集中しているのが安曇野わさび田湧水群でしょう。日本の環境省によって百名水のひとつに指定されています。大王わさび農場はそんなところに位置し、日本でも最大級の規模を誇っています)



18. 国際絵本朗読交歓会

§ International Story Telling Exchange at Morinoouchi Picture-book Museum §



<http://morinoouchi.com/>

4:00-4:30 p.m. 『いせひでこ絵本原画展』開催中の森のおうち絵本美術館内を見学
Tour of the Museum

4:30-5:40 p.m. 森のおうち・お話しの会のメンバーとの絵本朗読交歓会
Story Telling Exchange with the Ohanashi no kai members
(1) お話しの会より歓迎の詩(1)
谷川俊太郎 『私たちの星』
(2) 朗読絵本・宮沢賢治 『狼森』 (ギター伴奏入り)
“Oinomori” by Kenji Miyazawa
☆呼びかけ遊び(日・中・英にて)
(3) 朗読絵本・日野原重明 『いのちのおはなし』
“Inochi no Ohanashi” by Dr. Shigeaki Hinohara
☆聴診器にて、いのちの音を聴きあう
(4) 河北からの参加学生による朗読
朗読絵本・ローレン・トンプソン 『きぼう』
“Hope is an open heart” by Lauren Thompson
☆日本語版を映像にて流しながら、中国語の朗読を聴く

5:50-7:00 p.m. 交流懇談会 Friendship Party



7:00 p.m. 森のおうちを出発 Leave for the University

8:00 p.m. 大学北門到着、解散 Arrive at the Univ.'s North Gate

＜『狼森』、応答部分の中国語訳＞ (英訳付き)

1. 「ここへ畑起してもいいかあ。」

“是不是可以在这里开垦田地？”

Could I plow some field for farming?

「いいぞお。」

“可以啊——”

Sure thing!

2. 「ここに家建ててもいいかあ。」

“在这里建起我们的家园好吗？”

Is it alright if I built a house here?

「ようし。」

“好嘞”

Why not?

3. 「ここで火たいてもいいかあ。」

“在这里是不是可以烧火？”

Could I make a fire here?

「いいぞお。」

“可以啊——”

No Problem!

4. 「すこし木（きい）貰（もら）ってもいいかあ。」

“可以拿一些木头吗？”

Is it alright if I cut down some trees?

「ようし。」

“好嘞——”

Go ahead!

中国語訳：王立軒、盧郁、黄王哲、田洋洋

文責・英訳：牧 かずみ

英語クラスの出席者達に朗読交歓会の企画を話し、宮沢賢治の「狼の森」の上述の森と人間とのやりとり部分のみの中国語訳を依頼した。彼らはこの企画に賛同してくれたのみならず、この物語に高い興味を示し、全文の翻訳をしてくれたのである。



希望 希望 Hope

1. それは、はるかかなたのまぼろしなんかじゃない。いつだって、ほら、
 すぐそこにある。
 那不是，遥远彼岸的幻影。无论何时，你瞧，它就在那里。
 Hope... Sometimes hope feels far away. But hope is always there.

2. それは、たのもしいうでのぬくもり。
 那是温暖可靠的臂膀。
 Hope is the warmth of strong arms around you.

3. それは、かなしみのなみだ。こぼれおちたぶんだけ、よろこびがしみこむ。
 那是悲伤的眼泪。每一滴，又都饱含喜悦。
 Hope is sad tears flowing, making room for joy.

4. それは、ほとばしりでるいかりのことば。
 はきだすことで、わかることもある。
 那是喷发的怒火，通过发泄而懂得。
 Hope is angry words bursting, making room for understanding.

5. それは、おそろしいときに、「たすけて」とこえをあげること。もとめれば、
 すくいのはめのまえにある。
 那是恐惧时求救的呐喊。随着召唤，拯救就在眼前。
 Hope is scared words asking for help, and finding that help is there.

6. それは、だれかに たいせつにされていると知ること。
 じぶんにも たいせつなひとがいると知ること。
 那是，知道自己被谁所重视，又了解谁被自己所珍视。
 Hope is knowing that you are loved. Hope is knowing that you love others.

7. それは、おかあさんと しっかり 手をつなぐこと。
 那是，和母亲紧握的手。
 Hope is holding tight to your mother's hand.

8. それは、おやすみなさいのおとうさんのキス。
 そばにいてもらえないときにも、おもいだすキス。
 那是，父亲的晚安吻。纵然他不在身边，也会想起。
 Hope is your father's good-night kiss.
 Hope is remembering his kisses when he can't be there with you.

9. それは、ささやかなことにかんじるしあわせ。
 那是，点点滴滴中感受的幸福。
 Hope is finding happiness in simple things.

10. それは、おもいきってふみだすはじめのいっぽ。
那是，下定决心踏出的第一步。
Hope is daring to do something you've never done before.
11. あなたは、ひとりぼっちなんかじゃない。
你不是一个人。
Hope is remembering that you are not alone.
たくさんの人が、おなじようにかんじている。
很多人和你有一样的想法。
Many others feel just the way you do.

たくさんの人が、あなたを気にかけている。
很多人在关注着你。
Many others care.
12. それは、やみをてらすロウソクのほのお。
那是，照亮黑暗的蜡烛的火光。
Hope is a candle flame in the darkness.
13. それは、はいいろのくものうえのあおぞら。
那是，乌云上面的蓝天。
Hope is the clear sky above the gray clouds.

ふぶきのあとのまぶしいゆき。
那是，暴风雨后的耀眼的雪花。
Hope is the glistening of the snow when the storm has passed.
14. それは、せかいにむけてひらかれたところ。
那是，向世界敞开的心灵之窗。
Hope is a heart that is open to the world around you.

どんなことだって、変えることができる。
任何事情都可以改变。
Hope is knowing that things change-

よりよいせかいへと 変えるちからは、わたしたちのなかにある。
改变世界的力量握在我们手中。
And that we can help things to change for the better.
15. それは、いつもあなたのなかにある。
它一直在我们手中。

Hope is always there inside you,

芽をふくときを しずかにまっている。

静静的等待它发芽。

Waiting to unfold.

Sources)

English version: "Hope is an open heart" by Lauren Thompson

Japanese version: きぼう こころひらくとき 千葉茂樹 訳 ほるぷ出版

Chinese version: 李峰 (信州大学人文学部交換留学生)、片所由佳 (人文修士)

絵本美術館「森のおうち」館長の酒井倫子さんに国際大学交流セミナーの一環として森のおうちのおはなしの会の方々との朗読交歓会をやりたいとご相談に伺った。単に読み聞かせや朗読を鑑賞させてもらうのではなく、参加者も中国語や英語で体験できるものでありたいと趣旨をお話したところ、酒井さんは「やりましょう」と全面的にお助けできると約束くださった。

宮沢賢治ならこの方とつねづね思っていたが、3.11 後は宮沢賢治である必然性が高まった。さりとして、余りに哲学的すぎてには理解しにくいものはふさわしくない。『狼の森』は「自然と動物と人間の共存」という普遍的なテーマが教訓めくこともなく、すーと腹に納められるような内容で、選んで下さった酒井さんには感謝の他ない。森と人間の短い応答は日本語と中国語と英語で参加者全員が呼びかけ合い、大変賑やかであった。『いのちのおはなし』の日野原重明先生はご存知のとおり、本年 100 歳になられる現役の医師。10 歳の小学生達へ語った彼のメッセージは医学生たちの大先輩の生き様をそのまま伝えられると思い選んだ。聴診器をお借りして、実際に心臓音を聴きあったりして楽しい遊びも入れた。

最後に、不安なことが多い昨今の世界状況の中で、文化の垣根を越えて、誰もが希望を持って前進していけるよう、『希望』を選んだ。人文学部の中国人留学生と中国語が分かる日本人修士学生に中国語翻訳を依頼し、交流校からの学生達には到着後、「本場の生の中国語でこの詩を朗々と謡って聞かせて下さい」と原稿を渡した。過密な日程の中、この原稿に目を通す時間は前日までほとんどなかったはずである。そのような中、彼らの朗読の番がやってきた。前に出て行く彼らの手に原稿がないので、忘れてきたのか！と焦ったのは私ひとり。何と彼らは暗唱してくれたのだった。聴衆は画面に流れる日本語版の映像を見ながら、朗々と聞こえてくる生の中国語に聞き入った。

懇談会では「中国語の響きを美しいと実感し、距離が一步縮まった」とコメントしてくれた方もいた。お話や朗読にあまりなじみのない文化圏から来た留学生達にもそのすばらしさを味あわせてくださった酒井さんやおはなしの会の皆さま方に、翻訳作業に、朗読実演に取り組んでくれた学生達に、会場で呼びかけ遊びに興じてくれた参加者の方々に、地産の食材ですばらしい夕食をご用意下さった館の職員の皆さまに、心より感謝したい。

平成23年度国際大学交流セミナー（主催 信州大学／(独)日本学生支援機構）
「先端の予防医学の国際的協働に向けて」

19. 最終日プログラム 2011.08.02

河北医科大学学生によるセミナー修了発表会

進行： 谷口 専攻長

- | | | |
|---------------|------|---|
| 14:00 - 14:30 | 発表 1 | Experience in Shinshu University School of Medicine
ZHANG Bo, GAO Liu：駒津先生 |
| 14:30 - 15:00 | 発表 2 | A Fruitful & Happy Learning Time in Shinshu
University
ZHANG Wei, SONG Yawei：鈴木先生 |
| 15:00 - 15:30 | 発表 3 | Studying in Shinshu University School of Medicine
ZHAO Lei, WANG Xi：樋口先生 |
| 15:30 - 16:00 | 発表 4 | Aging Chemistry Department Training and
Communication
SHI Yun, LI Qian：青山先生 |

セミナー総括講義

- | | | |
|---------------|----------------------|--------|
| 16:00 - 17:00 | セミナー総括と『包括的先端予防医学』講義 | 谷口 専攻長 |
|---------------|----------------------|--------|

閉 講 式

進行：瀧 国際交流室長

17:00 - 17:30

- | | |
|-------------------|---------|
| 一 開式の辞 | |
| 一 セミナー閉講のあいさつ | 福島 医学部長 |
| 一 修了証、記念品の贈呈 | 〃 |
| 一 セミナー参加学生代表のあいさつ | |
| 一 閉式の辞 | |

20. セミナー総括講義 分子腫瘍学分野 谷口教授

包括的予防医学の創出

Development of Comprehensive Preventive-Medicine

1. 概 論(Over view on the projects in Shinshu Univ.)

2. 運動処方の後生的効果、ASC 遺伝子に着目して

Epigenetic effects of IWT, with special reference to ASC

谷口 俊一郎

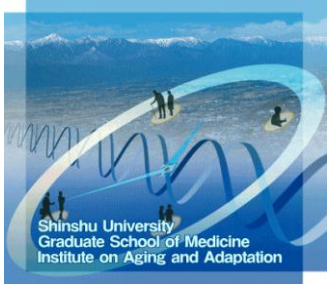
Shun'ichiro Taniguchi

信州大学・大学院


加齢適応医科学系専攻

分子細胞学部門


分子腫瘍学分野



【国際的評価例】 The Interval Walking Training invented by Dr.Nose's group was introduced on the front cover of JP, the top journal in physiology.



インターバル歩、e-ヘルスプロモーションシステム、そして、熱大メイトが、生理学で世界最高水準の英専門誌「The Journal of Physiology」の表紙を飾りました。



現在計画(our present plan)

1) 食と運動の介入効果に関し、科学的知見を明らかにするとともに、その際、介入効果の個人差を説明しうる遺伝子を決定する。

In addition to exercise, we will investigate effects of diet intervention to health promotion, directing our attention to each genetic back ground, to know the individual response.

We aim at finding exercise- and/or diet-response genes.

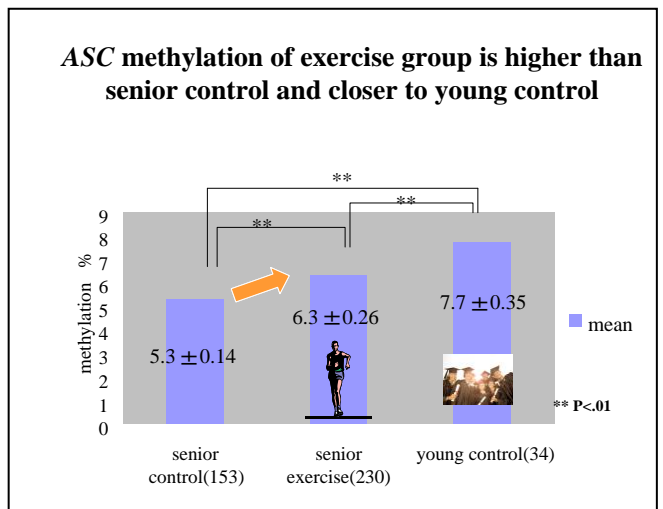
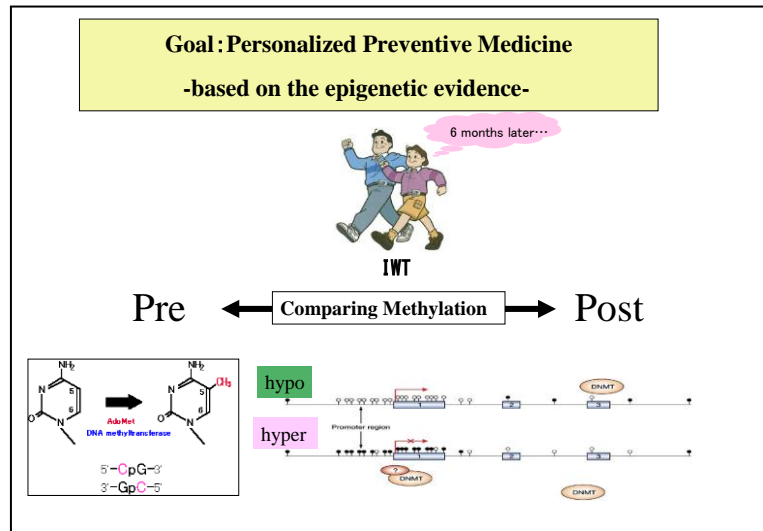
2) 1)の結果を基に、**テーラーメイド型予防医療**を創出する。

We try to develop a tailor-made preventive medical care based on 1) results.

3) 加齢適応医科学系専攻をさらに進化させ、疾患予防医科学系専攻として包括的予防医学の推進を図る。

We will rearrange the Institute on Aging and Adaptation and restart a new Institute on Comprehensive Preventive-Medicine next spring by adding out-standing researchers to the present team.

ASC regulates both host defense system and apoptosis



医学部長より修了賞とお土産を受け取る喜びの学生達



21. Thank you Letters

牧先生、

大変お世話になりました。私たちは、無事に木曜日の夜11時ごろ大学に着きまして、解散しました。皆、実のあるセミナーだと思っています。

先生を始め、お世話になっていた先生たち、そして関係者の皆さんに感謝を申し上げたいと思います。学生たちもまた改めて、先生に感謝のE-Mailを送りたいと思います。

先生と中国で会うことお待ちしております。

田 慶宝

Dear Maki sensei,

I am SHI Yun, one of the students from Hebei Medical University. We just arrived Shijiazhuang safely. Everyone is all right, please do not worry about us. We missed you and Japan as soon as we boarded the plane.

Thank you for everything you did for us, we hope it will not take too long to see you again. Good night.

Best wishes,

Shi yun

Biochemistry and molecular biology department

Dear Maki,

The trip to Japan was so wonderful, I keep thinking about it now and then after I came back to China. Thanks a lot for your careful and thoughtful arrangement, and we learnt a lot from this trip.

I still remember the first day at the opening ceremony you told us that to meet different people was important and it was one of the purposes for our Japan trip. Well, I'm glad I made it. But to be honest, at first I was not quite into it, because communication might not be that easy. However, the more I talked, the more charming parts of this came out. Language actually is not the main factor that blocks the communication. I think the attitude and the willingness are more important, and after all people are always willing to exchange ideas, for the difference. So I made friends with Yufuko, Theresa and many other people, too. It's very nice to make new and a different kind of friends.

And the lectures we had are very useful. They remind us of high technology in the world, and there are still a lot of things we must learn, and the high spirit and hard work. This trip is like a driving force, which has made me think twice about my study and life as well. Thanks for the professors' well preparation and the books and articles they have given us for further study. We appreciate that very much.

Talking about the books, I like the books which you gave us as a gift very much. Maybe it's a good time to learn Japanese. The culture part was a fantastic part of this trip. The art museum, the castle, the tea ceremony and the drum festival showed us the Japanese culture in traditional way and modern style as well. And the story exchanging meeting is quite new for us, and it's very interesting. Although I might have not fully understood the stories in Japanese, I could learn the major part from their performance. They gave us a wonderful show.

In the end, I want to express my gratitude to you again for all the things you have done for us. Looking forward to our next meeting either in Japan or in China.

Yours sincerely

Song Ya wei 宋亞偉



22. <アンケート集計>

1. プログラムの構成（講義、討議、見学、交流等のバランス）

	学生		教員		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%
① 非常に良かった	18	90%	5	50%	23	77%
② 良かった	2	10%	3	30%	5	17%
③ 普通	0	0%	2	20%	2	7%
④ あまり良くなかった	0	0%	0	0%	0	0%
⑤ 良くなかった	0	0%	0	0%	0	0%
合計（人数）	20	-	10	-	30	-

2. 講義について

	学生		教員		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%
① 大変有益だった	16	80%	6	60%	22	73%
② 有益だった	3	15%	2	20%	5	17%
③ 普通	1	5%	2	20%	3	10%
④ あまり有益でなかった	0	0%	0	0%	0	0%
⑤ 全く有益でなかった	0	0%	0	0%	0	0%
合計（人数）	20	-	10	-	30	-

3. 討議について

	学生		教員		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%
① 大変活発だった	10	50%	4	40%	14	47%
② 活発だった	8	40%	2	20%	10	33%

③ 普通	1	5%	3	30%	4	13%
④ あまり活発でなかった	1	5%	1	10%	2	7%
⑤ 全く活発でなかった	0	0%	0	0%	0	0%
合計（人数）	20	－	10	－	30	－

4. 見学について

	学生		教員		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%
① 非常に良かった	15	79%	3	50%	18	72%
② 良かった	4	21%	1	17%	5	20%
③ 普通	0	0%	2	33%	2	8%
④ あまり良くなかった	0	0%	0	0%	0	0%
⑤ 良くなかった	0	0%	0	0%	0	0%
合計（人数）	19	－	6	－	25	－

5. 相手大学の学生との交流

	学生		教員		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%
① 大変よく交流できた	15	75%	4	40%	19	63%
② 交流できた	4	20%	2	20%	6	20%
③ 普通	1	5%	2	20%	3	10%
④ あまり交流できなかった	0	0%	2	20%	2	7%
⑤ 全く交流できなかった	0	0%	0	0%	0	0%
合計（人数）	20	－	10	－	30	－

6. このセミナーの学術的な視点からの有益度

	学生		教員		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%
① 大変有益だった	16	80%	4	40%	20	67%
② 有益だった	2	10%	2	20%	4	13%
③ 普通	2	10%	1	10%	3	10%
④ あまり有益でなかった	0	0%	2	20%	2	7%
⑤ 全く有益でなかった	0	0%	0	0%	0	0%
合計（人数）	20	－	10	－	30	－

7. このセミナーの文化的な視点からの有益度

	学生		教員		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%
① 大変有益だった	14	70%	6	60%	20	67%
② 有益だった	6	30%	4	40%	10	33%

③ 普通	0	0%	0	0%	0	0%
④ あまり有益でなかった	0	0%	0	0%	0	0%
⑤ 全く有益でなかった	0	0%	0	0%	0	0%
合計（人数）	20	－	10	－	30	－

8. セミナーの満足度

	学生		教員		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%
① 大変満足した	16	80%	3	30%	19	63%
② 満足した	3	15%	4	40%	7	23%
③ 普通	1	5%	3	30%	4	13%
④ やや不満だ	0	0%	0	0%	0	0%
⑤ 不満だ	0	0%	0	0%	0	0%
合計（人数）	20	－	10	－	30	－

23. まとめとして 今後への改善点と展望

アンケート結果から見れば、学生達はプログラムの構成（講義、討議、見学、交流）のバランスのよさを高く評価している。教員からはどの項目においても概ね満足を示し、特に文化的な視点からの有益度を高く評価している。予防医科学の根底をなす概念を当地の伝統、文化、歴史にからめて包括的に学習してもらおうという企画者の意図は十分理解されたと思われるが、学生からも教員からも交流する時間やコミュニケーションがもっとあればよかったとのコメントが見られた。バランスはよいとしても、日程的には自由度のない欲張った内容であったこと、しかし、一方で異文化間にあっては、放置されていて『対話』が進むわけではなく、きっかけづくりの『仕掛け』はもう少し必要であったかも知れないと反省している。

交流校の参加者からは院生としてあるいは研究者として再来日の希望表明があり、すでに確定した者もいる。交流校の学生達の優秀性を評価し、日本人学生にとっての中国見学の有益性をコメントした本学教員も見られた。受け入れ推進の意欲が高まったことが伺われ、今後の協働が期待されます。

（文責・医学部国際交流室：牧 かずみ）

2011.08.17.